

平成25年10月30日
文 部 科 学 省

ESDに関するユネスコ世界会議について

1. 背景

2002年に開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）において我が国の小泉首相（当時）から「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」について提案し、同年の第57回国連総会において、2005年から始まる10年を「国連DESD」とすることが決議された。国連DESDの最終年である2014年に日本政府とユネスコの共催でESDに関するユネスコ世界会議が我が国において開催される。

2. 目的

我が国を始め世界各国における国連DESDの活動を振り返るとともに、2014年以降のESD推進方策について議論し、ESDの更なる発展を目指す。

3. 開催概要

愛知県・名古屋市において閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合を開催する。それに先立ち、国連機関、研究者、学校関係者等各種ステークホルダーの会合を岡山市において開催し、その議論結果を愛知県名古屋市での会合に反映させる。

○愛知県・名古屋市

- ・閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合

日程：2014年11月10日（月）～12日（水）

会場：名古屋国際会議場

ユネスコ加盟195カ国から閣僚を含む約1000人規模の会合

※なお、11月13日（木）に国内関係者によるフォローアップ会合を開催

○岡山市

- ・ユネスコスクール世界大会

日程：2014年11月6日（木）～8日（土）

会場：ホテルグランヴィア岡山、国立大学法人岡山大学

国内外の高校生及び教員約1,000人が参加

- ・ユース・コンファレンス

日程：2014年11月7日（金）

会場：岡山国際交流センター

世界各国の18～35歳のESD実践者等100人が参加

- ・持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議

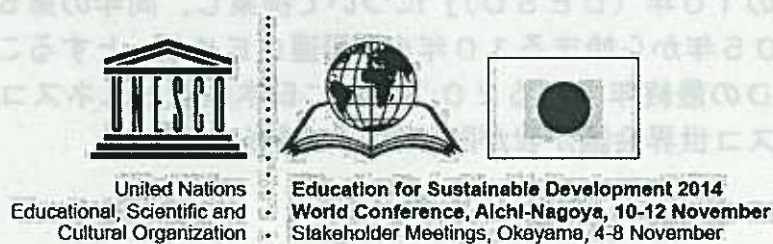
日程：2014年11月4日（火）～7日（金）

会場：岡山コンベンションセンター

世界各国のESD実践者300人が参加

4. 「ESDに関するユネスコ世界会議」ロゴマークについて

世界会議の周知のため、ユネスコと日本政府はロゴマークを策定。



5. 「ESDスローガン」について

「ESDは自分に関係あるもの」という意識を啓発するため、文部科学省において、スローガンを策定。

スローガン：「あなたの毎日が、未来になる」

※趣旨 「自分たち一人一人が毎日身近なところから行動を起こすことが、持続可能な地球の未来につながる」

6. 「ESD QUEST」について

文部科学省は、ESDを分かりやすく説明する冊子を作成。

(参考URL)「3. ESDストーリーブック」に掲載予定

<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>

7. 「ESDに関するユネスコ世界会議」ウェブサイトについて

本年8月、ユネスコにおいて世界会議ウェブサイトを開設した。

(参考URL)「ESDに関するユネスコ世界会議」ウェブサイト

<http://www.unesco.org/new/en/unesco-world-conference-on-esd-2014/>

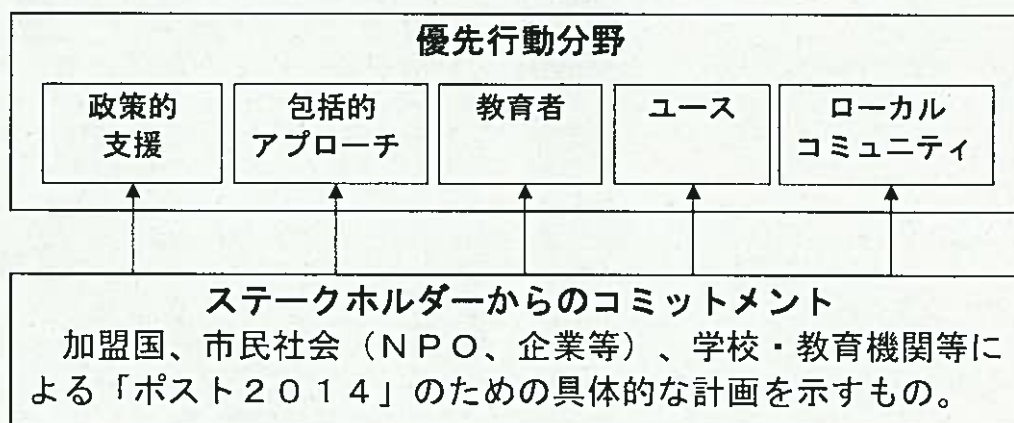
ESDに関するユネスコ世界会議の成果文書について (ユネスコ事務局案)

世界会議では、「ESDグローバルアクションプログラム」※の具体的な実施に向けて、各ステークホルダーがESDをさらに強化し、そのための行動を起こすことを宣言する文書を採択する予定。

これを通じ、2015年以降のグローバルアクションプログラムに沿った関係者の取組がより強固で広範なものとなることが期待される。

※ESDグローバルアクションプログラムについて

- ・「国連ESDの10年」の後継プログラムとして位置付け、2015年以降のESDの取組を推進する。
- ・2013年10月の第192回ユネスコ執行委員会で承認され、11月の第37回ユネスコ総会に諮られた後、2014年秋の国連総会で採択される予定。



ESD 持続可能な開発のための教育
Education for Sustainable Development

～気づこう、築こう、未来～

北九州のESD



環境未来都市 北九州市

©Nissan City of Kitakyushu

ESDってなに？

Education for
Sustainable
Development

世界規模でみると様々な問題が山積み。

経済

市場経済による貧困の格差拡大／先進国による地球資源の大部分の使用／企業責任 など

環境

地球温暖化の進行／オゾン層の破壊／生物多様性の破壊／巨大化する自然災害／異常気象 など

社会

食料問題／途上国の人口爆発／異文化対立／人権侵害／ジェンダー不平等／戦争／飢餓／感染症（HIV等）／水問題 など

このままの状態を続けると、地球はもたない

私たちは今まで「自然との共生」「公正な社会」「経済的発展」のバランスを考えていたでしょうか？



日本ではさらに複雑な問題が絡み合っています。

例えば

急速な少子高齢化

核家族化の進行と地域コミュニティの希薄化

農村・漁村の過疎と都会の過密

東日本大震災をきっかけとしたエネルギー問題

深刻な食料自給率の低下

経済格差の拡大

雇用問題

私たちがこの地球に暮らし続け、将来世代が安心して暮らせる社会を実現するためには、社会のあり方を見直し、持続可能な社会へと変えていく必要があります

「Think Globally Act Locally ～地球規模で考えて、地域で行動しよう～」

地球や日本の危機に対し、最も身近なつながりである地域で取り組むことから乗り越えていく、つまり、地域のつながりの中から、地域の魅力や課題を見つけ、様々な人・組織・分野が結び付き、学び合い、行動することが、持続可能なまちづくりの鍵

そのためには

良い未来をつくる担い手(=人)を
育む教育が不可欠

それが

ESD



北九州ESDの特長と目標

ベース

市民団体、企業、学校等から成る北九州ESD協議会を中心に各団体が特長を活かして、ESD活動を実践

学び方

「気づく」「学ぶ」「考える」「行動する」ことができるような人財を育む教育を目指し、地域参加体験型の学習を推進

広がり

これまでの環境の取組みを活かし、産学官民が連携して、「つながる」「ひろがる」「共有する」ことにより、課題の発見・解決を目指す

北九州における持続可能な社会づくりの原点

激甚な公害

北九州地域は、明治34年の官営八幡製鉄所の操業開始以降、重化学工業を中心に発展し、四大工業地帯の一つとして、日本の近代化・高度経済成長のけん引役を果たしてきました。一方で、急激な経済発展は、1960年代から激しい公害をもたらすことになりました。



地元婦人会の「青空がほしい」運動

煤じん調査、生活発表会、記録映像「青空がほしい」作成など



公害克服を成し遂げた産学官民連携による取組み



ESDの普及に向けた取組み

～環境未来都市の実現に向けた人づくり～



ESD未来創造セミナー

ESD活動普及の鍵となるつなぎ・まとめ役たるESDコーディネーターの育成に力を入れています。



藍島(小倉北区)をフィールドとした環境教育

大学生と小学生と一緒に漁師体験や海外漂着のごみ拾いなどを通じて持続可能性を考えます。



市民センターでの活動

地域拠点である市民センター(小学校区ごとに約130箇所設置)では、多世代の様々な活動を通して、持続可能なまちづくりを目指します。

市民が、気づき、自ら学び、考え、行動したことで、大学や行政、企業の取組みへと広がり、課題解決に至った

まさにESDを実践

奇跡の復活

取り戻した青空と美しい海



1960年代の公害(大気汚染)
七色の煙を吐く「北九州工業地帯」



洞海湾の対岸若松区の山々も鮮明



1960年代の公害(水質汚濁)
大鯛も住めなかった死の海「我海灣」



汚泥浚渫等で、沢山の魚介類が復活

公害克服の経験を活かして



北九州まなびとESDステーション

市内10大学連携により、ESD推進のモデルとなる地域拠点を目標します。

施設概要
住所 北九州小倉北区魚町三丁目3-20
中屋ビル地下1階
電話 093-522-0071
開館時間 11:00～19:45
(毎週水曜日・祝日・年末年始は休館)
HP <http://manabito.kitakyu-u.ac.jp>



NPO法人空き缶基金

「募缶」と称したリサイクル活動やその収益による花苗の提供、環境教育の実施など「空き缶」を通じ、様々な人・地域・企業・自然等をつなぎます。



尾倉中学校(八幡東区)のRCEトロン(韓国)との国際交流

市内の学校において国際的な視点からESDに取り組むユネスコスクールの登録を推進します。

目標：100万市民がESDを実践

持続可能な社会の実現へ

北九州には、
ESDの豊かな土壌が育まれている

本市でのESDの位置づけ

環境未来都市を目指す北九州では、ESDを市の基本計画「元気発進!北九州」プランをはじめ、「北九州環境基本計画」、「北九州生涯学習推進計画」など重要な多分野の計画に位置づけ、主要施策として取り組んでいます。

ESD活動のリーダーシップを担うRCE

RCEとは?

ESDを推進する仕組みとして、国連大学が認定する地域拠点のことで、「Regional Centre of Expertise」の略称です。

RCEは、多様なステークホルダーからなり、ESDを推進するための情報交換、協議、協働のための場を提供するとともに、活動を支えるための情報と経験を蓄積する地域の知識ベースとしての役割も果たすなど地域レベルの分野横断的な学習ネットワークを構築します。また、世界のRCEとともに、グローバルなネットワークの形成を図ります。

全世界でRCE=ESDの拠点づくりが進められており、現在、国内では6地域(右記)がRCEとして認定されています。「RCE北九州」は平成18年にメンバーとなりました。

平成26年1月時点のRCE:127地域



北九州市で「アジア太平洋RCE地域会議」を開催しました!

国連大学サステナビリティ高等研究所は、グローバル及び地域ごとの国際会議を毎年開催し、多様な分野における取組事例の共有や拠点間の連携強化等によるESDのさらなる推進を目指しています。

ユネスコを中心に2005年から開始した「ESDの10年」の最終年会合のイベントとして、市制50周年を迎えた平成25年10月に、本市で「第6回アジア太平洋RCE地域会議」を実施しました。また、この会議の本市開催を記念して、一般向けの「持続可能なライフスタイルに関する国際シンポジウム」を併催しました。シンポジウムには、市民をはじめとする約800名の参加をいただき、国連大学による講演やアジア太平洋地域における各RCEの事例発表、パネルディスカッションなどを通じて、アジア太平洋の地域の方々と一緒に持続可能な社会づくりについて考えました。



北九州市に集ったアジア太平洋地域RCEの仲間たち



一般公開の国際シンポジウム



市民や学生たちによる様々な手づくり企画のおもてなし

国連持続可能な開発のための教育の10年とは?

1992年、環境と開発の両立を目指して開催された「環境と開発に関する国際連合会議」(リオサミット)において、持続可能な開発についての国際的な取組みに関する行動計画「アジェンダ21」が採択され、その中で教育の重要性と取組みの指針が盛り込まれました。

これにより教育と持続可能な開発に関する取組みが世界的に行われ、ESDの概念についての議論が深められ、ユネスコが中心となって、持続可能な開発のための教育のあり方について、検討が進められました。

我が国においても、政府とNGOの議論が重ねられ、その提言をふまえ、2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」(ヨハネスブルグサミット)の実施計画の交渉過程で、日本政府は、「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」(DESD)を提案し、国連総会で満場一致で採択されました。

これにもとづき、2005年から2014年までを「ESDの10年」と位置づけ、そのもとで、各国政府、国際機関、NGO、企業等あらゆる主体間で連携を図りながら、教育・啓発活動を推進することとなったものです。

「ESDの10年」に関わる主な動き

	世界	日本
		「持続可能な開発のための教育の10年」開始
2005	愛知県名古屋市で国連大学・ユネスコ国際会議「グローバルイノベーションとESD」並びに「アジア太平洋地域DESD開始式典」を開催 ユネスコが「DESD国際実施計画」を策定し、国連総会で承認	「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議を設置
2006		第1回国際RCE会議開催(日本・横浜市) ※以降毎年開催 関係省庁の連絡会議が、我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画を策定 教育基本法を改正
2007		ESD推進議員連盟を発足
2008	第1回アジア太平洋RCE地域会議開催(韓国・トンヨン) ※以降毎年開催	行政、NPO、教育機関、企業等の関係者による「ESD円卓会議」を開始 小・中学校の学習指導要領を改訂(ESDの理念に沿った学習内容の充実) 教育振興基本計画を策定(ESDの理念が盛り込まれる) 「ESD国際フォーラム2008」を開催
2009	「ESDの10年」の中間年における進捗状況レビューのための、ユネスコESD世界会議(ドイツ・ボン)を開催	
2010		生物多様性条約第10回締約国会議(CBD-COP10)を愛知県・名古屋市で開催
2011	第6回RCEグローバル会議開催(オランダ・ケルクラーデ) ※「国際RCE会議」(旧)から名称変更	我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画を改訂
2012	「国連持続可能な開発会議」(リオ+20)開催。成果文書に「2014年以降のESDの推進」が明記される	「リオ+20」で、日本は「環境未来都市の世界への普及」などに加え、ESDなど持続可能な開発のための基盤づくりに取り組むことを表明
2014		「ESDの10年」最終年会合である「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」を愛知県・名古屋市及び岡崎市で開催



発行 北九州市 環境局 環境政策部 環境学習課 ESD推進係
〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1 TEL.093-582-2784 FAX.093-582-2196

初版/平成25年8月 第2版/平成26年1月 第13110758号 ※環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。
※表紙は、西日本工業大学デザイン学部情報デザイン学科内プロジェクト「HAMU」(河村春佳、高木晶子、磯田万寿、洪銀秀)によるデザインです。